



## オーストラリアから戻って

天気にも恵まれ、オーストラリアでは、たくさんのかげがえのない体験をしたことでしょう。この先、21世紀を生きるあなた方は、海外に行く機会も、旅行をする機会もたくさんあることでしょう。個人旅行は、現在の社会状況の中で、空席の出やすい便を使ったり、自由なプランニングをしたりすることで、比較的安価に設定されています。しかし、教育旅行というものは、常に何百人もの生徒が同条件で同時に動くという制約の中で、必ずしも安くない旅行になってしまいます。

だからこそ、さまざまなプランの中から、教育旅行だからこそそのプログラムをたくさん用意したつもりです。リディーマーとの学校交流や、ファームステイ、コアラサンクチュアリのプログラム…。ひとつひとつが思い出になったことを期待したいところです。

しかし、こうしたプログラムを作る背景には多くの人の努力、協力があることに気付いてほしいところです。リディーマーの先生と本校の先生が、何度もやりとりをし、向こうの生徒と先生が事前の準備を重ねました。こちらでも、スポーツや文化交流に向けて先生方や該当の生徒が準備をし、そして、多くの人の協力で実現するのです。ファームも、もちろん向こうの仕事とはいえ、受け入れ人数上限の宿泊者に、最大限楽しんでもらうプログラムを作ってくれました。現地のガイドさんももちろん仕事ではありますが、本校がカスタマイズした慣れないプログラムをひとつずつ説明してくれていたわけです。そういうプログラムが熟成するには、先輩たちやあるいはそのプログラムに関わった多くの人たちの経験があるのです。そして、決して安くない研修費用を出してくれた保護者の方にももちろん感謝の気持ちを持ってほしいところです。

現地のガイドさんや、オーストラリアで出会った幾人かの人たちは、みな口を揃えてみなさんの経験を羨ましがります。もちろん、この旅行が100点である人は少なく、多かれ少なかれ不満や問題もあることでしょう。しかし、そうした減点の目ばかりとらえることは決してよいことではありません。君たちが「当然」のように感じた楽しさや満足が、かけがえのないものであり、多くの人の協力によって得られた貴重な体験なのだというところに是非気がついてほしい。そして、その感謝の心は、今後の君たちの人生に活かしてくれればよいと私たちは思っています。

さて、研修が終わりました。息つく暇もなく、次の行事がやってきます。こうした体験を経て君たちが成長し、残りの学校生活に活かしてくれることを切に願います。

## 入試数学の傾向～大学入試にむけて～

先日、東大・東工大・東北大～学習院大などの、入試数学に関する話題を聞く機会がありました。最近の受験生の傾向として、1・計算力の低下、2・文章の理解力の低下、3・記述力の低下、4・図形認識の甘さを、どの大学でもあげていました。そして、これらのことを確認できる入試問題を作問したい、と。もちろん、最低限のものは覚えておく必要はありますが、それらを整理して、いつ、どういう時に使うのか、常に出し入れ自由な引き出しに入れておく必要がある、ということです。センター試験も同様で、ここ数年、問題文が長く

なったり、計算が大変になったり、図形を自分で正しく描ければ解ける問題が出題されたり・・・。記述さえありませんが、その他の問題に関しては、上記の事柄を試す問題が並んでいます。

ただ、高2までは、きちんとパターン問題を解けるようになっていればよい、高3の4月もしくは夏以降過去問などで思考力を鍛えていく方針でよいそうです。もちろん、高2までのパターン問題を、単にパターンとして覚えるのではなく、どうしてそう解いていくのかを、考えながら解かなくては意味がありません。今、やっている問題を、どうして、こうやって解いていくのか、考えながら解いていきましょう。

また、先日参考書の学校販売をして、かなりの人が購入してくれました。参考書を買うとき、何を大切に買うかですが、辞書的に使用するのが、個人的には良いと思います。わからない時に、辞書を引くように引いてみる。そうすると、たいていはヒントが見つかります。受験生ならば、辞書の一つも必要ではないか、と考えます。まだ、購入していない人は、是非、考えてみてください。

## 中間試験から特別考査へ。

最初の中間試験が終わりました。文系理系に分かれてはじめての重要な試験でした。悲喜こもごもかもしれませんが、試験が終われば、分析をし、次に生かさねばなりません。その際にまず、次の2点を考えてみてください。

- ① 絶対的な最終ゴールと比べること
- ② 前回からの成長、成果を比べること

このどちらがかけても正しい評価はできません。

たとえば、慶応の法学部の現役進学を考えているとするなら、本校の過去の学年のデータからすれば（もちろん、この学年は過去最高の結果を残してきているのですが）学年の1ケタ順位にいてくれなければ勝負ができません。あるいは、学年の真ん中ちょっと上程度の生徒が（特に理系では）早稲田に入ることもありません。とするならば、当然、自分の最終目標と現在地をきちんと見比べて、「上がった」とか、「最低平均」とかいう視点で今回の結果を見ても仕方がないということです。

だからといって、性急な結果は出るべくもありません。特にすでにセンター範囲が終わってきた国数英では、短期集中的な学習をしたとしても、成果があがるまでにタイムラグがあり、受験勉強、たとえば1日5時間の学習を続けたとしても手ごたえを感じるまでにはおよそ2カ月の継続が必要です。（だからこそ、遅くとも2年の夏から意識だけは受験生にならなければいけません。）となれば、目標達成シートのグラフをしっかりと書き、残り2年のグラフの中で、今回どこにいればいいのか、次にどこまで伸びればいいのかをつかむ必要があるのです。

つまり、「平均をとった！と喜んで目標と比べていない生徒」も「前回から伸びているのに、期待以上の成果がないとヤル気を失う生徒」も両方とも問題だということです。

やるべきことは、長期的な目標と比べること、そして、今やるべきことをひとつひとつ片付けること、です。

そうした陥りやすい一喜一憂から逃れるためには、目標とやるべきことをしっかりと書きだし、それを有言実行として手帳などでひとつずつ片付けるしかありません。一度書いたとしても、すぐ意識は薄れていきますから、2週間に一度程度は書きなおすことが大切です。さて、それでは、試験の分析をしていきましょう。

### 分析のために

#### 1 偏差値でなく、得点で見る

偏差値とは順位です。順位とは人が関わるもので、自分のコントロールできるものではありません。したがって、自分なりの努力と成果で見る指標が大切です。また、得点で追うこ

とによって、「あと2点」「あと20点」など足りない部分を明確にすることが可能になります。

## 2 苦手分野とやるべきことを対応させること

次の計画を立てる際に、友達に言われた、先生に言われた、先輩に言われたなどと、言われたものをやるだけでは、問題は解決しません。長文が苦手なら長文を、作文が苦手なら作文を、記述が苦手なら記述を練習するしかありません。ただ、与えられた参考書をやればよいというものではありません。

## 3 原因を5回さかのぼること

「成績が悪い」→原因「勉強をしない」→対策「勉強する」というようなことは言われるまでもなくわかっていることです。こうしたことは分析とはいいません。この場合、「勉強しない原因は」→「ゲームをするから」→「ゲームをする原因は」→「時間を決めていないから」→「時間を決められない原因は」とさかのぼれば、具体的な行動の歩目が分かります。「勉強する気にならない」→「クラブで疲れるから」だとすれば、朝の自習を使うなどの課題解決が考えられますよね。

## 4 目標を明確に立てること

同じBランクを次の目標にしているとしても、すでにBの人が現状維持をするのと、DやEの人がBになろうとするのでは、やることも量も異なって当然ですね。同じBの人でも現状維持しようとするのとAAを目指すのでやることが異なって当然です。クラブ活動でもそうであるように、練習することは必要ですが、練習すればいいというわけではないのです。まず、目標を立てないことには、そのために何が必要かがわかりません。とりあえず、でもかまいませんから、目標だけはぼかさずにはっきり立てましょう。

## 特別考査に向けて

特別考査は、オーストラリア研修に行っていたこともあり、定期試験範囲があまりありませんので、国数英ともに、センター試験型の初見中心の出題とすることにしています。こうした模擬試験型のものだから、「対策ができない」「勉強しなくていい」というのは、まさに受験勉強からの逃避、敗北です。

センター試験は次の2点が非常に明確なものです。

### 1 基本事項が多く、出題範囲やレベルが明確であること

受験型の中でも単語、文法などある一定の範囲ができれば確実にその分得点ができ、逆に基本事項が習得できなければその分得点を失います。

### 2 形式が独特であり、かつ分量や配点が例年ほぼ変わらないこと

すでに各教科からある程度の説明を受けていると思いますが、問題構成、配点などは例年ほぼ変わらず、時間配分や期待される得点率まで含めて、非常に対策が立てやすく、また対応した問題集、模試なども充実していて、いくらでも準備をすることができます。

すでに連絡した通り、今年の大きな目標は、

## センターチャレンジ（1月、センターそのものの受験をする模試）

### 得点率70%

です。これは、学年として平均ではなく、この得点率を最低限としたい数字です。（実際は平均点などにもよりますし、60～65%ぐらいが本当の意味での最低限だと思っています）これを絶対に達成するためには、事前にセンター試験を模擬試験的に取り組んでいく必要があります。

事前チェックとしては、12月の駿台マーク模試がありますが、そこに向けての最初のチェックが今回の特別考査です。しっかりとセンター対策をすすめて成果をあげましょう。

#### 特別考査

文系 国語80分、英語80分、数学60分＝センター同

理系 国数英＝80分、数学は60分のIA+20分のII以降の範囲

なお、センター試験の形式や対策については、後日、学年通信として発行します。

# 30期学年目標

未知の世界を切り開き、社会に貢献する、自立した「人財」へ

## 目標とする人間像

「気づき」のある人間 「聞く姿勢」を持つ人間 「学び続ける」人間

## 身につけるべき力

目標から「逆算」する力  
やるべきことを「具現化」する力  
他者を「理解」し、「理解される」力

### 夢実現のための十則

- 夢を持て。ない夢はかなわぬ。目標なく一生懸命やることに酔うな。
- やることを与えられるな。自分のために創り出し、形にして期限を決めよ。
- 他人と関われ。他人を理解しようとしろ。他人に理解される努力をしろ。
- 挨拶をせよ。人に気づき、人に気付いてもらえる。
- 毎日他人に奉仕しろ。心がきれいなら他人も応援してくれる。
- 話を聞く姿勢を作れ。聞く人には教えたくなる。助けたくなる。
- 書け。何度でも書き直せ。書かないことは考えていないこと。
- 自分と戦え。自分は見ている。人と戦うな。気にするな。自分が変われ。
- 大事なことは最初にやれ。優先順位を考えろ。タイミングを逃すな。
- 成功を繰り返し、失敗を繰り返さぬよう分析しろ。原因を五回さかのぼれ。

## 今後の予定

- 6月24日（金） 夏期講習締め切り  
24日（金） 8時25分登校 テーマ研究チーム決め  
7月 1日（木） 40分短縮授業  
3日（土） 数学ターキー、テーマ研究、仕事塾  
7日（水） 特別考査  
15日（木） 夢ナビライブ\*国際フォーラム  
※午前中は、自主研修（自由参加）として、「知的見聞録」による大学見学を予定。  
20日（火） 終業集会